

一生懸命生きてきたあなたの人生に

「乾杯！」

一緒に生きてきた周りの方に

「感謝！」

これからも

「楽笑楽笑」の気持ちで

生きましよう

「お迎えがくるまでは」



秩父市立病院

勅使河原正敏

皆様方へ

今年、医者として四十二年目をむかえます。その間、患者様やご家族様あるいは周りの方々からいろいろ教えていただきました。

人間は、唯一後悔してしまう動物です。割り切ったつもりでいても割り切れないことがたくさんあります。

そこで、少しでも心が和んでくれるようにと私なりに心に留めた言葉を集めてみました。昔からいわれているものや私の体験によるものもあります。立場によっては、とらえ方が違ってくるかもしれません。また、言葉として不適切なものや過激な表現があるかもしれません。お許しください。こういう風に思えたら気持ち楽になるかも知れません。ぜひ、読んでみて下さい。

そして、事実を受け入れ、お互いに理解しあえるきっかけとなれば幸いです。命が消えるとき、本人や家族にとって簡単に割り切れないのは当然のことです。なお、この語録を広めて頂けると幸いです。

令和四年一月

勅使河原正敏



医療とは、最善の行為を保証しますが、最高の結果まで保証するものではありません。また、白黒と判断できない場合もあります。

ぜひ、医療の限界と不確実性を知ってもらえれば幸いです。

### ◆「名医もはじめは迷医ただの医者」

「名人もはじめは迷医ただの人」のところを医者にかえてみました。どう頑張っても一年目の医者は一年目です。十年目の医者は十年目です。テレビなどで盛んに名医と称されている医者だって、最初から名医であるわけではありません。誰もが普通の医者だったのです。患者様にとっては、病気を治してもらえば、その医者が名医なのです。

### ◆「平等に老いることが長生きの秘訣」

歳をとり、脚力は弱くなり、膝の痛みもでてきて思うように歩けなくなると、落ち込んでしまいます。しかし、心臓や肺などの内臓にとって、脚だけが達者であっては、たったものではありません。平等に老いてこそ、うまくいくのです。



◆「病気になるのもぼけるのも早い者勝ち」

病人を介護し続けることは大変なことです。それも長期となればなおさらです。そんなとき、病人となってみてもらうほうがよいかそれとも病人をみるほうがよいか自問してみてください。そうすることで、もうすこし頑張れるかもしれません。

◆「ぼけは神様からの最後の贈りもの」

ぼけずにいて自分のことがわかってしまう状況は、かなしいものです。老いて思うように体がきかなくなり不治の病になった時、本人にとってぼけていたほうが病気も知らずどんなにか気持ちが悪くもありません。介護なさるご家族にとっては大変なことです。このように考えられたらどんなものでしょうか。

◆「病気があっても医者にかからなければ病人にはなりません。」

お年寄りにしてみれば、かりに治らない癌があったとしても医者にかからなければ、病人にならずに、それなりの生活をおくることができるものです。

◆「お迎えがくるまで生きましよう」

「いつまで生きられますか」と質問され、返事に困ったことが誰でもあると思います。そんなときに「お迎えがくるまで生きましよう。」と答えてみたらいかがでしょうか。なんとなく納得してしまうものです。

◆「病院は体裁のいい牢獄です」

あるお年寄りから聞いた話です。なるほどと思いました。入院すれば、朝六時に起こされ夜九時に消灯させられます。当然のことですが、ずっと監視され、食事の量や尿の回数など数項目にわたってチェックされる生活です。見方をかえれば「体裁のいい牢獄」といってもよいかもしれません。ですから、入院はできるだけ必要なときにおすすめします。

◆「病院は危険できたないところですよ」

とかく病院は安全なところとおもっていらっしやる患者様のご家族をよくおみかけます。それは逆です。とくにお年寄りは慣れ親しんだ家だからこそ少々認知症があつて



も生活できていますが、病院のような別の所に移ったりすれば、慣れないベッドから落ちたり徘徊したりし、入院をきっかけに認知症も進行してしまいます。入院させたことでご家族のご苦労がなくなった分、入院したお年寄りには苦労するわけです。お年寄りの入院はできるだけ必要なときにおすすしめします。

また、病院ほどきたないところはありません。外部から患者様を介して、いろんな菌が持ち込まれてきます。そうであるにもかかわらず面会に赤ちゃんを連れてきて床をハイさせている光景をときどきみます。健康な赤ちゃんをわざわざ病院に連れてくることはおすすしめできません。

### ◆「病院にかかっているから病気の進行もあるし、病気も増えます」

患者様やご家族の方は、病院にかかっているから病気も進行しないし、病気にもならないと思いがちです。実はその逆です。病院にかかっているからこそ、病気の進行も、時に癌など別の病気がでてくるのがわかるのです。癌もわかりやすいところにあればすぐ気付くことができますが、そうでない場合がたくさんあり、

癌とわかったときには相当進行していることもあるわけで、ふせぎようがないのです。

◆「医者だって患者様との相性のあうあわないがあります」

医者もひとです。神様ではありません。ときには相性があわず失礼をするかもしれません。われわれ医者側にも非があるかもしれませんが、患者様やご家族にもちゃんとモラルを守っていただくことも大切です。

◆「あるひとにとって名医でもほかのひとにとって名医かどうか知りません」

知り合いからすすめられて来院する患者様をよくおみかけします。患者様にしてみれば治してもらえればどんな医者でもその患者様にとって名医です。しかし、ほかの患者様にとって名医かどうかはわかりません。病気の内容によって違ってきますし、医者との相性もあります。治らない病気は、どんな名医にみても治りません。

◆「どんな医者でもやっつけていられるのは自然に治る病気があるから」



昔も今もほっといてもよくなる病気はたくさんあります。患者様は病気になると医者にかかり、病気がよくなると治してもらったと思い、医者に感謝します。医者は患者様を治したと思い、患者様に感謝されます。お互いがいいように思うことで医者と患者との関係がなりたっているのです。百の病気のうち、九十の病気は自然に治る病気、五の病気は医者が正しく診たてないと治らない病気、残りの五の病気は誰が診ても治らない病気なのです。

### ◆「医者選びも寿命のうち」

昔からいわれていることですが、親戚や友人などご家族以外の方から「あの先生にみてもらえばよかった」といわれ、後悔しているご家族をお見受けします。でも、このように思うことができたら、きっと後悔もせずになすむでしょう。くれぐれも、ご家族を混乱させるようなことは慎むべきです。責任をとっていただけると別ですが。

### ◆「ひとは唯一後悔する動物です」

ひとはとかくうまくいかない後悔します。医療の現場でも同じで、亡くなるとわか

っていてもどちらかを選択せざるをえないときがあります。どちらを選択しても後悔するわけですから、後悔のすくない方を選択することをおすすめします。

### ◆「親孝行」と「子孝行」

子が親にするのが「親孝行」です。広辞苑には「親によく仕えること」と書かれています。親が子にするのが「子孝行」で、あまり耳にしない言葉だと思います。「子孝行」とは、子に生き方や何かあった時の延命処置などについてどうするかを伝えておくこと、身辺整理や財産整理をしっかりとしておくこと、子に日頃から心配をかけ面倒をみてもらっておくことです。

### ◆親として不本意に永らえないために

親は子どもに生き方や何かあった時の延命処置などについてどうしてもらいたいか伝えておくこと、身辺整理や財産整理をしっかりとしておくこと、子どもに日頃から心配をかけて面倒をみてもらっておくことです。そうすることで、子どもには死を受け入れ



てもらえ、むやみな処置をされないで済みます。

### ◆子として親を不本意に永らえさせないために

日頃から、親に生き方を聞いておくこと、親孝行をしておくこと、財産整理・身辺整理をしてもらっておくことが大切です。なお、医師からどうするか聞かれた時は、自分がその患者様の立場だったらどうしてももらいたいかを考えて判断することをおすすめします。

### ◆「長生きするから病気にもなるし病気もふえます」

お年寄りが癌になっても、ご家族はそれを受け入れできず、なんで癌になってしまったのだろうと悩みます。そして、癌の家系ではと心配している方をときどきお見受けします。高齢で癌になった家系は癌の家系ではなくて長生きの家系です。長生きするから癌にもなるし、病気にもなるのです。



## ◆「近くににいるのが親孝行」

昔から、「遠くの親戚より近くの他人」といわれてきたように、近くにいてもなんかのときには役にたつものです。今、近くにいますだけで

親孝行ができていない自分にとっては、「近くにいるのが

親孝行」と思うことで、どんなに救われているかわかりません。

## ◆「親は無償の踏み台」

親は子供に対して無償の愛を与えるといわれているように、親のお蔭で、子供は親を踏み台にして大きく成長させてもらっているのです。

そう思うことで今、親孝行できていない自分がどんなにか救われるかわかりません。

## ◆「大人から見れば回り道、子供から見れば真っすぐな道」

子供をもった親はおわかりでしょうが、親の思うようには子供はいきません。子供のうちはいろいろな心配を親にかけます。でも、ちゃんとした大人になっていくものです。



親から見れば回り道でも、子供にとっては真っすぐな道なのかもしれません。そう思えば、いいですね。

◆「どうせやるなら楽笑楽笑」

「なにがあっても楽笑楽笑」という言葉から、何事もやるならいやいややるより楽しくやったほうがよいことを、この言葉で表現してみました。

◆「いつまでもやれると思うな 親孝行。いつまでもやると思うな 親孝行」

「親孝行したい時には親はなし」と昔から言われてきましたが、世情もかわり、余裕もなくなくなり、よいことばかりもいえなくなりました。そこで表現してみた言葉です。ですから、「親は無償の踏み台」と親も子供もそう思えるともいいかもれませんね。

◆「人生に無駄なし。仕事に雑用なし。」

こう思って、人生をおくり仕事もやれるといいですね。先日、「仕事に雑用なし」と先輩にいつてみたら、「人生に無駄なし」と返ってきました。なるほどなあと思いました。

仕事も雑用と思ってやるとついつい手を抜いてしまうことがあるかもしれません。人生もわかり。なにごとにも前向きに考えて人生を送ることができれば、きっと悔いのない人生を送ることができるとしよう。大変、意味深い言葉です。

(完)

お読み頂きありがとうございます。

ご感想、ご意見遠慮なくお寄せ下さい。

